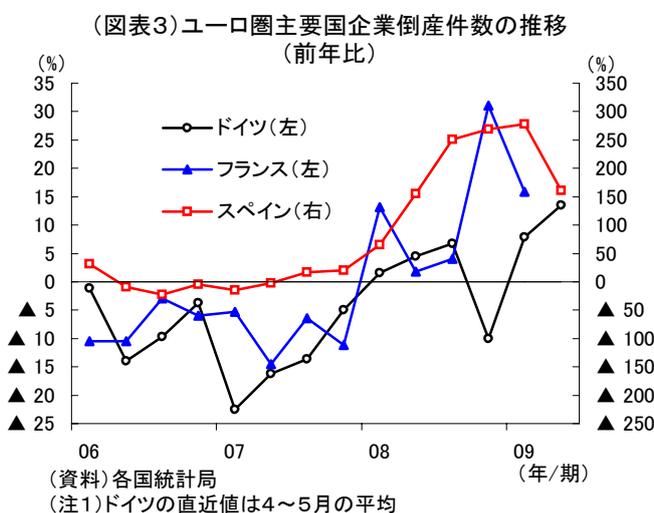
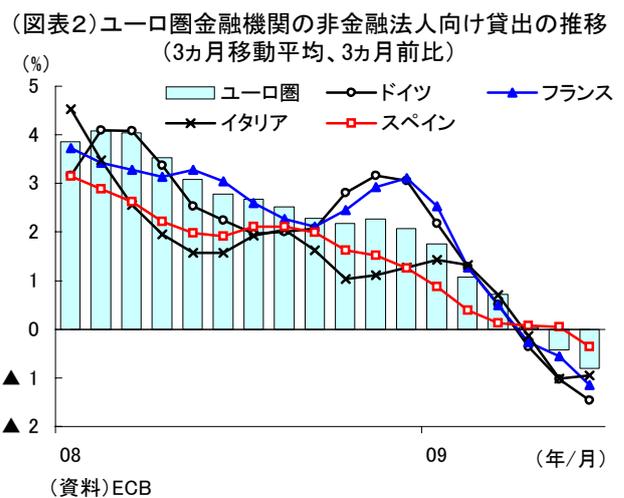
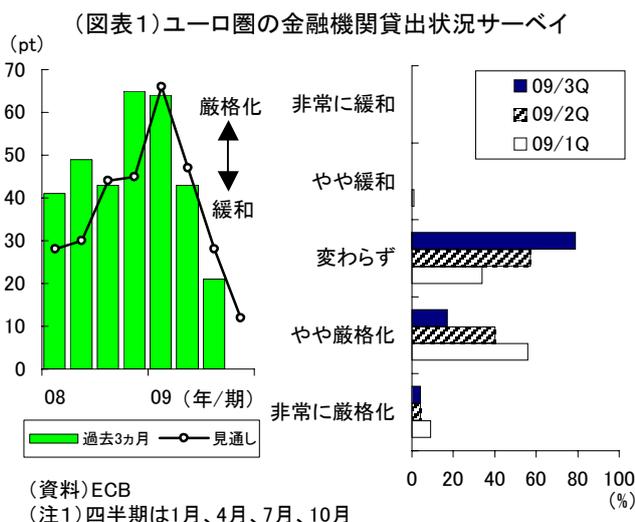


ユーロ圏において進行する不良債権問題

- (1) ユーロ圏では、域内金融機関の経営問題がくすぶり続けるなか、金融環境に改善はみられず。ECB貸出状況サーベイによれば、本年入り以降、金融機関の企業向け貸出態度DIは厳格化超幅が縮小しているものの、内訳をみると『緩和している』との回答はなく、厳格な貸出態度が続いている様子を示唆（図表1）。一方、ユーロ圏金融機関の非金融法人向け貸出残高は、企業の設備投資意欲の減退に加え、金融機関のリスク回避の動きもあり、6月末にかけて減勢が拡大（図表2）。
- (2) 先行きも、不良債権問題が金融機関の経営を圧迫する公算大。法人部門では、住宅バブル崩壊の後遺症が深刻なスペインを筆頭にドイツ、フランスでも企業倒産件数が増加（図表3）。家計部門でも、雇用・所得環境の悪化を背景とする住宅ローンや消費者ローンの返済行き詰まりなどから、個人破産件数が増加する見込み。
ECB発表のFinancial Stability Reviewによると、2010年末までのユーロ圏金融機関の潜在的追加損失額は合計2,830億ドルと試算され、不良債権処理を迫られる見通し（図表4）。もっとも、ECBの試算には中東欧などユーロ圏域外の債権が含まれておらず、実際の損失額はこれを大幅に上回る懸念。算出方法が異なるため単純な比較はできないものの、IMFは4月発表のGlobal Financial Stability Reportにおいて、ユーロ圏金融機関の域外子会社を含む予想損失額を7,500億ドルとしている。
- (3) ドイツなどでは、政府が金融機関に対して貸出を増やすよう圧力を強めているものの、景気後退が長期化するなかでの貸出拡大は、さらに不良債権を増大させ、金融システム不安につながるリスク。



(図表4) ECBによるユーロ圏金融機関の累計評価損・損失額と潜在的追加損失額の試算(2007年8月から2010年末まで)

	残高	累計評価損・損失額
証券計(①)	15,000	2,180
サブプライム/AIt-A	1,060	590
RMBS	3,970	600
社債その他	9,970	990
貸出計(②)	130,090	4,310
家計向け	65,200	2,000
企業向け	64,890	2,300
累計評価損・損失額合計(③=①+②)		6,490
08年5月28日時点の証券評価損(④)		2,150
07年~08年貸倒引当額、損失額(⑤)		1,500
潜在的追加損失額(③-④-⑤)		2,830

(資料) ECB『Financial Stability Review/June 2009』